

			22年度観察数													観察月数	観察数合計
観察月			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
観察日			13	11	8	18	10	14	12	9	14						
番号	科	名称	天気														
			晴	晴	曇	曇	晴	晴	曇	晴	晴						
1	カモ	カルガモ													0	0	
2	ハト	キンバト	1	6	2		1	4	1		2				7	17	
3	ウ	カワウ													0	0	
4	サキ	アオサキ													0	0	
5	サキ	ダイサキ													0	0	
6	カッコー	ツツトリ													0	0	
7	トビ	トビ	○												0	0	
8	タカ	ツミ	VU												0	0	
9	タカ	ハイタカ	VU												0	0	
10	タカ	オオタカ	VU							1					1	1	
11	キツツキ	コケラ	3		5			3	2	4	1				6	18	
12	キツツキ	アカケラ	○												0	0	
13	キツツキ	アオケラ	○	1	1	2	1		1	1					6	7	
14	ハヤブサ	チョウゲンボウ	VU												0	0	
15	ハヤブサ	ハヤブサ	VU												0	0	
16	モズ	モズ	VU												0	0	
17	カラス	カケス													0	0	
18	カラス	オナガ	NT	9	7	8			2	2					5	28	
19	カラス	ハシボソガラス		4	4	2	2	3	10	6	9				8	40	
20	カラス	ハシブトガラス		11	7	6	8	11	11	7	10	12			9	83	
21	シジュウカラ	ヤマガラ	○						1		2	1			3	4	
22	シジュウカラ	シジュウカラ		21	11	22	7		13	13	16	24			8	127	
23	ツバメ	ツバメ		2	3	3	3	1							5	12	
24	ツバメ	イワツバメ	NT												0	0	
25	ヒヨトリ	ヒヨトリ		28	16	18	22	7	2	23	28	25			9	169	
26	ウグイス	ウグイス	○			3	2	2			4	2			5	13	
27	エナガ	エナガ	NT	6	4				15		16				4	41	
28	メシロ	メシロ					3	2	4		34	5			5	48	
29	ムクドリ	ムクドリ			17	2	2	3							4	24	
30	ビタキ	シロハラ		1											1	1	
31	ビタキ	ツグミ													0	0	
32	ヒタキ	ルリビタキ													0	0	
33	ビタキ	ジョウビタキ									2				1	2	
34	ビタキ	コサメビタキ	VU												0	0	
35	スズメ	スズメ						3							1	3	
36	セキレイ	キセキレイ								1					1	1	
37	セキレイ	ハクセキレイ													0	0	
38	アトリ	アトリ													0	0	
39	アトリ	カララヒワ													0	0	
40	アトリ	シメ													0	0	
41	アトリ	イカル	NT												0	0	
41	ホオジロ	アオジ													0	0	
数 月 / 年			11	10	11	9	9	11	9	11	8	0	0	0	19		



ムクドリ



ガビチョウ幼鳥



ヤマガラ



ジョウビタキ

注1: 表の最下段

注2: 名称欄記号

外来種

観察月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
カワラハト									11				
カビチョウ		4	3	6	3	4	0	3	5	1			
ソウシチョウ													
ホンセイインコ													

レッドリスト表示について

名称欄に東京都レッドリストのカテゴリー表示を行った。カテゴリー表示の条件を以下に示す。

2020年版 東京都レッドリスト

対象地域 北多摩の評価による

カテゴリー名称	表示	基本概念
絶滅危惧ⅠA類	CR	ごく近い将来における野生で絶滅の危険性が極めて高いもの
絶滅危惧ⅠB類	EN	ⅠA類ほどではないが、ごく近い将来における野生で絶滅の危険性の高いもの
絶滅危惧Ⅱ類	VU	現在の状況をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」ランクに移行することが確実と考えられるもの
準絶滅危惧	NT	現時点での絶滅危険度は小さいが、生育・生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの
ランク外	○	前回2010年版に掲載されていて今回の改定によりレッドリストから外れた種
非分布	・	主要な生息地でないという理由から対象外とされた種

観察担当者



ヒヨドリ



コゲラ



ヤマガラ

月	
4	手入れにより林床が明るくなった。よからアオゲラ、ガビチョウの大きな鳴ら、カラス及び少数のコゲラ、エナガ空にツバメ、種不明の猛禽を目視。
5	囀りは先月よりは少ないように感じ、ヤマザクラの若葉の中に羽をばたつか鳥と見守る親鳥のようだった。ヤマサでいるように見えた。オナガの幼い、シジュウカラの幼鳥の声が数か所で2か所で聞こえたが、姿は見つけられガビチョウは6羽観察された。その中から、この公園内で営巣しているよ
7	残念ながら、外来種であるガビチョウ羽根などに幼さが残り、歩行は両かった。地上での餌取りの真っ最中た。アオゲラの巣穴は、さらに大きく
8	日差しを避けているのか鳥の姿がりにウグイスが時々声を響かせていた。ブトガラスが松の枝にとまり、口を開子なのか2羽で共に飛び回っていた
9	久しぶりに、混群(コゲラ、ヤマガラ、も、ヤマガラは武蔵台公園で、今季、藪を広範囲で刈ったためか、今季、かった。同時に、ウグイスの存在も
10	大きなドラミングの音とアオゲラの囀りやエナガなどの期待される小鳥は畑にてキセキレイが目撃された。多、一頭体認められ、その様からミサゴ
11	シジュウカラ、エナガ、メジロの混群た。メジロは、植物のムラサキシキブにいた。猛禽類には2度出会えたが羽は種を同定できず残念。ジョウビトバの動作時にドラミングのような音を
12	ヤマガラが現れ、人の気配をものともせ確認できなかった。ムラサキシキブの枝盛んにドラミングが聞こえていたが、姿は。藪を好む冬鳥が現れていないのが
1	
2	
3	

は月ごとの観察種数と年間の観察種数。
よ、2020年度東京都レッドデータ、北多摩のカテゴリー表示。

のラ
ての

22年度コメント
<p>く日が降り注ぎ、春の豊かさが感ぜられる。初っ端 き声を確認。多数のオナガ、ヒヨドリ、シジュウカ を確認。緑色低木の茂みにシロハラ(冬鳥)確認。上 ウグイスは確認されなかった。</p>
<p>るがシジュウカラとガビチョウはよく鳴いていた。ヤ ハせる個体に遭遇、巣立ちしたばかりのヒヨドリの幼 ザクラのキツツキの穴が深くなり、下方にも掘り進ん 音がきこえた。</p>
<p>聞こえた。子育ては順調のようだ。アオゲラの声も れなかった。ウグイスの囀りも3か所できこえたが、 中には、虫を咥えて運んでいるものもあった。残念な うだ。</p>
<p>ウの幼鳥を目の前で2羽確認した。嘴の色や背中の中 足でジャンプするホッピング、足が長く、尾羽も長 でした。一方のウグイスは2羽のさえずりを確認し なっていて、入口付近に木くずを確認した。</p>
<p>いなくかった。繁殖期の囀りがぐっと少なくなったの こ。対抗するようにガビチョウの声が聞こえた。ハシ 羽けて、体温調節している姿が見えた。ヒヨドリは親 こ。ツバメが上空を旋回していた。</p>
<p>シジュウカラ、エナガ、メジロ)が見られた。なかで 、初見であった。アオゲラの声を数か所で確認。笹 毎月、確認されていたガビチョウの存在の気配は無 確認できなかった。</p>
<p>き声が認められたが、姿は確認できなかった。メジ 確認されなかったものの、コゲラやオナガのほか、 摩川方面から遙か上空を横断する種不明の猛禽が と推測されたが定かではなかった。</p>
<p>に3回出会え、時にはヤマガラ、コゲラも観察でき グの実に集まっており、10数羽のグループで行動し 、オオタカは武蔵台公園では初認であるが、もう1 タキ♂♀の2羽を初認。ヤマガラが餌を樹木に埋め を発した。同ー行動のガビチョウ一家5羽を確認。</p>
<p>ず、近くまで来ていた。ときどき混群が現れたがエナガが にシジュウカラ、メジロが良く止まっていた。閉鎖地から が見えず、種の特定ができなかった。繁殖行動と考えられ 気になる、注意して観察していきたい。</p>